

## 【片平町の地名】

片平町には、他の町村のように「大字」がありません。これは昔、鎌倉時代から戦国時代まで片平館に安積伊東氏が住し、その直轄地となっていたことが考えられます。他の町村のように昔から合併がなされていないからです。

(但し、明治9年6月ころから河内村と長橋村の南浦と合併し、明治12年2月までの約2年8ヶ月の間菱形村となっていた時代がありました)

### (1) 片平という地名

片側に山が迫りその反対側は平地となって拓けている土地(柳田国男;地名の研究)。また、古代語で「ピラ」とは崖のことであり、古い地図を見ても逢瀬川の南側は昔は崖になって拓けた土地であることから、古い時代の片平本村地域あると考えられます。方言では「カタピラ」といわれていた。

#### 館 西

片平館(上館)の西にある地名といわれている。 - 館西という地名はない -

#### 鳥井戸

昔、岩倉にある鳥居(井)が建ててあって鳥居(井)の入り口なので、鳥井戸となったといわれている。岩倉道から鳥井戸部落へ入る道の南側に字鳥井戸という地名がある。

#### 岩 倉

昔、八幡太郎義家公が玉ノ木八幡に戦勝祈願のおり、岩の上に愛馬の鞍をおいたことから岩鞍(岩倉)となったと伝えられている。

また、岩倉地区を「ユウエン」と呼んでいるのは、大昔岩倉に御大尽が住んでいて神社やお寺があり池や沼が多く、この世の極楽 - 遊園 - の地であったと伝えられている。

#### 深 谷

古くから拓けていた処で、昔は現在の部落の北側に屋敷があったと伝えられている。部落の東側に字深谷と云う地名がある。

#### 渡 戸

「ワタド」とは川を渡ったところ、亘(わたり)が語源です。字鹿島から馬場川を渡ったところに字渡戸前の地名があります。

#### 新田中

#### 中 村

#### 高 森

#### 庚坦原